

SUPERBIKE

EXtra, EXpert and EXtreme

EXPRESS--

2011 MFJ SUPERBIKE Rd.1 SUZUKA 2&4 RACE / JSB1000



秋吉耕佑
全セッション完全制覇
ポールポジション獲得!!

カギを握る秋吉が全セッションを制覇しP.P.を獲得! 全日本に復帰した加賀山がミラクルを起こすか!? 巧、伊藤、中須賀もしたたかに表彰台の中央を狙う!!



待ちに待った2011年シーズンが鈴鹿2&4レースで開幕した。今年もJSB1000クラスとフォーミュラ・ニッポンという国内最高峰レースの共演となった。

土曜日の公式予選は、朝から快晴となりノックアウト方式で争われた。ここで速さを見せつけたのは、やはり秋吉耕佑だった。秋吉は、このレースウィークで今年初めてJSB1000マシンをライディング。雨となった木曜日の特別スポーツ走行から、ノックアウト予選のQ3まで、すべてのセッションでトップタイムをマーク。好調ぶりを見せつけた。

「マシンは、今回がシェイクダウンと言っても、昨年と大きく変わっていないし、去年のベースセットがあるので、順調にきています。路面の状態があまりよくなかったので、Q3は淡々と走った」と言いながらも、2分07秒121をマークし、ポールポジションを獲得した。

この秋吉に0.013秒差と肉薄したのが自らのチームを立ち上げ、全日本に8年振りに戻ってきた加賀山就臣だった。最後のアタックでベストタイムをマーク。世界で活躍してきた実力を見せつけた。

「予選では2番手までこられたけれど、まだチーム全体の實力としては、そこまで届いていない。まだまだトップを狙うには厳しい状態だね。秋吉、伊藤さん、中須賀が速いんだろうね。秋吉がレースメイクするのかな? 協力してくれている人たちのおかげで、今、自分がここにいられる。よるこんでもらえる結果を残していきたい」と加賀山。現状では、実力以上のタイムをマークできたと語っていたが、レースでも、その走りに注目したいところだ。

3番手にはJSB1000、3年目となる高橋巧がつけフロントウイング最後のグリッドを獲得。昨年、後半戦で調子を崩していた巧だったが、今年のマシンとの相性はいいようで、セッション毎にタイムを削っている。「2分06秒台に入れられるかな?」と思ったんですけど無理でしたね。レースでは秋吉さんや加賀山さんに、ついていけるように頑張ります。もちろんチャンスがあれば勝負しますよ」と謙虚(?)に強気なコメント。

秋吉のTカーで急遽参戦が決まった伊藤真一も、このレースウィークで今年初めてJSB1000マシンを駆った。この日、行われた鈴鹿8耐発表会では、秋吉と2年振りにコンビを組むことも明らかにされ、それを見越しての参戦となった。「まだまだ被災地では、大変な



Pole Position 秋吉 耕佑 (写真中) 2'07.121

「JSBでは事前テストのない中でのレースとなりましたが、昨年の最終戦でのデータがあったので、大きな問題はありませんでした。自分の中では目標タイムはレコード(6秒488)の更新だったんですが、Q1、Q2とアタックしてきた中で届かないと思い、Q3ではとことん攻めるのではなくアベレージで7秒台を想定して走りました。タイヤはずっとコース中でタイムを出したので、タイムは意識せずにマシンのセットアップをじっくり進める、といった感じでした。決勝レースは7秒台になるとは思いますが、決勝朝のウォームアップで最後の確認をして臨みたいと思います」

状態ですが、ボクが走ることで一人でも元気になってくれればと思っています。実際、まだまだ、やることは多いですが精一杯走るだけです」と惜しくもフロントロウは逃したものの、相変わらずの速さを見せている。

ゼッケン1を奪還したい中須賀克行は、金曜日の走行で転倒を喫し、腰を強打。痛みはあるものの、セッションが始まれば、いつも通り気合いの入った走りを見せた。

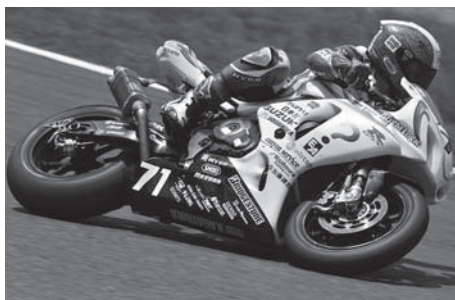
「トップ4にアベレージで遅れを取ってしまっているけれど、決勝朝のウォームアップも使ってギリギリまでまがきますよ。スタートを決めてオープニングラップは、トップで戻ってこられるようにしたいですね」と、いつものスタートダッシュを決める構えだ。

6番手にはカワサキ最上位タイムをマークした芹沢太麻樹がつけ、鈴鹿レーシングで初レースとなる徳留和樹、カワサキで初レースとなる大崎誠之、出口修と続いている。カワサキのエース柳川明は、ニューマシンとタイヤの相性に苦しみ12番手。6番手以下の戦いも激しくなりそうだ。

ライダーが声をそろえているのが、フォーミュラ・ニッポンとの共演の影響で、いつもより路面のμが低いということだ。フォーミュラ・ニッポンのタイヤラバーが路面につく影響とマシンの下部にある木製のスキッドブロックのおかげでライダーたちを惑わせている。

タイム的にトップ5が抜きん出ており、この中からウイナーが生まれるのは間違いない。レースのカギを握る秋吉が、どうレースメイクをするのか? そのラップタイムによって、ふるいにかけられることになるはず。15週の決勝レース、最終ラップの最終コーナーをトップで駆け下りてくるのは誰だ!?

[佐藤 寿宏]



全日本ロードレースをいろいろと盛り上げてくれそうな世界帰りの加賀山就臣。2番手グリッドから、Team KAGAYAMA初レースに臨む。

Photo by Y.Harada/H.Wakita(c)

QUALIFYING PRACTICE RESULT, REPORT & INTERVIEW

●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走41台
●決勝スタート/12:00(15周)

Pos No.	Name	Team	Best Time
1	秋吉 耕佑	F.C.C.TSR Honda	2'07.121
2	71 加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	2'07.134
3	634 高橋 巧	MuSASHI RT ハルク・プロ	2'07.213
4	5 伊藤 真一	F.C.C.TSR Honda	2'07.286
5	21 中須賀 克行	YSP Racing Team with TRC	2'07.738
6	02 芹沢 太麻樹	エヴァRT 式号機 トリックスター-FRTR	2'09.744
7	54 徳留 和樹	Honda 鈴鹿レーシングチーム	2'09.967
8	75 大崎 誠之	ウッズストックレーシングチーム	2'10.126
9	8 武田 雄一	Taira Racing	2'10.352
10	01 出口 修	エヴァRT 初号機 トリックスター-FRTR	2'10.627
11	25 浜口 俊之	クラウン 警備保障 RACING	2'10.657
12	87 柳川 明	TEAM GREEN	2'10.834
以上Q3にて決定:			
13	104 山口 辰也	東豊レーシング 広島デモス	2'11.745
14	10 東村 伊三	RS-ITOH&ASIA	2'13.108
15	32 今野 由寛	MotoMap SUPPLY	2'13.307
16	69 谷 誠士郎	BMS RACING	2'14.314
17	17 高田 達人	Tras&8810R+NKB	2'14.794
18	67 西中 綱	Honda DREAM RT と歌山	2'14.995
19	19 藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	2'15.287
20	30 鈴木 大五郎	KTM Racing	2'15.362
21	34 宇佐見 保弘	チーム・エッチングファクトリー	2'15.935
22	66 大内田 実	DOG FISH オーテックスズカ	2'15.988
23	37 田村 武士	テイクアップ OIRF	2'16.086
24	20 北口 浩二	クラウン 警備保障 RACING	2'19.585
以上Q2にて決定:			
以下Q1にて決定:			
25	63 片平 亮輔	8810R with MCR	2'16.609
26	18 久保山 正朗	Honda 浜友会 浜松エスカルゴ	2'17.013
27	23 吉田 光弘	Honda 緑陽会 熊本レーシング	2'17.067
28	22 原田 洋孝	RS-ガレージ ハラダ 姫路!	2'17.157
29	31 井上 健志	炎R	2'17.650
30	55 須磨 貞仁	CONFIA HF	2'18.024
31	57 里 実	Team エバタ	2'18.079
32	99 吉田 和憲	救急救命戦隊licu RT	2'18.207
33	73 吉広 敦	CLUBNEXT&中村eng.	2'18.519
34	65 和多瀬 邦治	DOG FISH オーテックスズカ	2'18.547
35	95 飯田 将人	Honda 緑陽会 熊本レーシング	2'18.581
36	49 吉田 剛規	FASTER-Racing	2'19.720
37	70 権随 廉	Jr's Club	2'19.952
38	48 尾藤 哲也	チーム・エッチングファクトリー	2'20.752
以上予選通過車両:			
39	51 樋口 幸博	T・モトキッズ 瀬RT	2'21.510
40	77 金山 和弘	Team・橋本組	2'23.261
41	44 佐藤 大輔	SRF クラブ RAIJO+1.5	

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

08:00 - 08:30	JSB1000ウォームアップ走行
08:45 - 09:15	Formula Nippon プリ-走行
09:50 - 10:15	F3 第2戦決勝レース (17Laps)
10:40 - 11:20	ピットウォーク
11:45 - 12:00	JSB1000 コースイン〜選手紹介
12:00 - 12:15	JSB1000 決勝レース (15Laps)
13:45 - 14:00	Formula Nippon 決勝レース (37Laps)
15:45 - 16:00	F3 第4戦決勝レース (17Laps)
17:00 - 17:30	サーキットクルージング (2輪体験走行)

2011全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第1戦 鈴鹿サーキット



山本尚貴がQ3のアタックで初ポール

全16台で争われたフォーミュラ・ニッポンのノックアウト予選。まずはQ1を制したのは山本尚貴。続くQ2では、途中で雨が落ちるというコンディションの中、小暮卓史がトップに。しかし、「最後にすべての良いところを出し切った」という山本がQ3でトップに立ち、堂々の初ポールを獲得した。

山本は「ポールの優位性を活かしたレースをして表彰台の頂点を狙いたい」と語っている。

